



住まい

「きょうじょうひょう、じょうきょうひょう」を意識した 移住を考えてみよう

定

年退職後、気候の穏やかな地域に移住し、悠々自適に暮らす……。近年、こうした移住生活を謳う情報が多く出ています。株式会社三菱総合研究所首席研究員の松田智生さんに、シニア世代の移住についてお聞きしました。

「移住」の形態としては、もともと住んでいた土地を離れ、住民票を移す移住から、夏は涼しい地域で、冬は温暖な地域で過ごす、といったもの、また週末だけ移住する「プチ移住」など、さまざま。農業やそば打ち、陶芸などをやりたい、という人もいれば、晴耕雨読の生活をしたいたい、移住を希望する人もいます。

「用事や行く場所も特にない、スローライフは1週間で飽きます。移住で大切なのは、『きょうじょう』と『きょうひょう』と『きょういこう』と『きょういこう』を極めたい、仕事で身につけた技

術・知識を移住先で活かしたいといった目的・用事があることで、移住後の生活が充実します」と松田さん。

ただし、移住によって、お墓の管理や親の介護、孫や友人との交流など、現在できていたことができなくなる恐れもあります。そのため、最初から長期移住するのではなく、短期間の移住を繰り返して、移住後の生活の雰囲気をつかんだり、周囲の住民との人間関係の構築などをした方が、スムーズに移住ができると松田さんはアドバイスします。「移住先の医療・介護施設なども調べておけば、いざという時の安心にもつながります」



高知県のように都心部に住んでいた人のビジネス知識を地場産業に活かしたいと、積極的に移住を受け入れている地域もあります
©kawano-Fotolia.com



お金

「やりたいこと」はやめない 上手な家計管理をしましょう

4

月から消費税が8%に増税となり、家計に響くのでは……と悩まれる人もいるでしょう。総務省の家計調査(2012年)によると、高齢者夫婦無職世帯の家計の場合、毎月の収入は約22万円で、支出は約27万円。差額5万円は貯金を取り崩していると言われてます。年金生活の場合、働いているときと異なり、収入が増えることはほぼ見込めません。そこで、「家計を管理するうえで、何に日々使っているのかを把握し、自分の優先順位を決め、予算を決めて使うようにしましょう」と、ファイナンシャルプランナーでマネーセラピストの安田まゆみさん。

まず、お金の流れを理解し、「足りないから、つい」貯金を取り崩していないかをチェックします。また、人によってお金をかけた対象はさまざまです。食事が好きな人は食費にお金をかける

一方、洋服にはあまりお金を使わないようにするなど、メリハリをつけた使い方をするようにしましょう。その際、どれくらい回せるのかの予算を決め、その範囲内で暮らすことで「足りない！」が減らせると安田さんはアドバイスします。

「やりたいことを我慢してお金を貯めても、満足した人生にはなりません。『これにはお金をかけてもいい』と思うものには、貯金をつぎ込んでもいいのです。ただし、その分ほかのものはちよつと我慢するなど、人生を楽しむために上手にお金を使うようにしましょう」



年金生活前後で生活が変わるのは当然のこと。「何を大切にして暮らしたいか」を考えてお金を使うことが大切です
©asami-Fotolia.com